

第 2 回 恵那市環境審議会 会議録

日時：令和 7 年 12 月 23 日（火） 午後 3 時から
場所：恵那市役所会議棟大会議室

- 1. 開 会
- 2. 会長挨拶
- 3. 副市長挨拶
- 4. 諮問
- 5. 議題

審議事項

（1）第 3 次恵那市環境基本計画の策定について 資料 1・別冊

報告事項

（2）恵那市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】の進行管理について 資料 2
（3）その他

- 6. 閉会
- 7. 会議の公開・非公開 公開
- 8. 出席者 12 人中 10 人（以下のとおり）

氏名	選出団体等	備考	出欠
竹島 喜芳	中部大学	会 長	出席
柘植 清成	恵那市環境対策協議会	副会長	出席
渡邊 康正	地域自治区会長会議		出席
加藤 規久	恵那商工会議所		出席
渡會 充晃	恵那市恵南商工会		欠席
下畑 茂	恵那市校長研修会		出席
鈴木 雅博	恵那市農業振興協議会		出席
小椋 正明	えなの森林づくり推進委員会		出席
足立 美保子	NPO 法人市民エコ会議		出席
坪井 弥栄子	恵那市子ども・子育て会議		欠席
猪岡 貴光	環境省中部地方環境事務所		出席
伊藤 明	岐阜県恵那県事務所		出席

12. 傍聴者の数・・・・・・ 3 人

【議事録要約】

■議題（１）第３次恵那市環境基本計画の策定について

- ・ KPI の変更箇所（黄色部分）と第２次計画との整合性について質問・意見があった
- ・ 耕作放棄地増加を踏まえ、協定農用地面積よりも「耕作放棄地抑制」を指標とすべきとの意見があった
- ・ KPI と将来像が結びつきにくく、市民に理解されやすい説明やストーリー性が必要との意見があった
- ・ 協定農用地の減少は高齢化・後継者不足が要因であり、営農組織化や基盤整備の重要性に関する意見があった
- ・ メタン排出削減（間断かん水）や、肥料に含まれるマイクロプラスチック削減（J コート化）化に関する意見があった
- ・ 市施策（再エネ受電、エコアクション等）が市民に浸透していないとの意見があった
- ・ 学校教育を通じた環境学習の効果（子どもの CO₂削減行動の習慣化など）に関する意見があった
- ・ 計画の周知のため、概要版リーフレットの作成や広報紙への同封などの意見があった
- ・ アンケート指標について、調査手法の工夫が必要との意見があった
- ・ 公害苦情件数の内容を企業に共有するなど、商工団体と連携した啓発に関する意見があった
- ・ 目標指標に定める「１人１日あたりのごみ排出量」の意味を分かりやすく伝えていく広報の必要性に関する意見があった
- ・ 人口減少に伴い、事業の選択と集中やダウンサイジングが不可避と認識したとの意見があった
- ・ サステナブル燃料の活用に関する今後の方向性について質問・意見があった
- ・ 太陽光パネル廃棄問題への懸念やメガソーラーの市内状況について質問・意見があっ

た

■議題（２）恵那市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】の進行管理について

- ・ バイオディーゼル燃料の利用拡大に関する意見があった
- ・ エコカー更新の計画的な推進について質問・意見があった
- ・ エコカー導入後の燃料使用量の推移を確認し、適正な車両使用を求める意見があった

【議事録詳細】

1. 開 会

■進行（事務局） 定刻となりましたので令和7年度第2回恵那市環境審議会を開会します。本日は恵那市環境基本条例第15条第3項の「審議会は環境行政に関する重要事項について必要があると認めるときは、市長その他関係機関に助言及び勧告ができる」の規定に基づき助言を頂きたいと考えております。

本日は委員10名出席で、環境基本条例第19条第2項の規定により審議会開催が成立しています。この審議会は公開とし、資料、議事録は市ウェブサイトで公開するとともに名簿も公開させていただきます。

2. 会長挨拶

■進行（事務局） 会長から御挨拶を頂きます。

〔 会長 挨拶 〕

3. 副市長挨拶

■進行（事務局） 副市長から挨拶します。

〔 副市長 挨拶 〕

4. 諮問

■進行（事務局） 今年度末をもって最終年度を迎える恵那市環境基本計画の策定について当審議会へ諮問が行われます。

副市長、会長は前方へお進みください。

それでは副市長、よろしくお願いします。

〔 副市長から会長に諮問 〕

■進行（事務局） ありがとうございました。副市長、会長はお席にお戻りください。

5. 議題

審議事項

(1) 第3次恵那市環境基本計画の策定について

■進行（事務局） これより議題に入ります。環境基本条例第19条第1項の規定により、会長が議長となりますので、以降の議事進行は会長にお願いします。

■議長（会長） 議題（1）第3次恵那市環境基本計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（会長） 意見や質問はありませんか。

■委員 8ページ、目標指標の、黄色の部分とそうでないところの区分けはどういうものですか。

それと、基本目標1～5があり、その後の第2次環境基本計画の中の目標が5つあります。その整合性を教えて下さい。

■事務局 黄色のところは第2次計画を少し変えたところです。

第2次と第3次の整合性は、黄色の部分を変え、あとは、設定理由で書いた、第2次では総合計画と書いてあるものがありました。8ページの基本目標1に2項目あり、第2次では4項目あります。これは、担当部署と相談し、総合計画で掲げていたものを第2次で拾っていたので4つあったのですが、今回、総合計画の見直しがあり2つに絞ったので、間伐面積で、山の手入れをして環境を良くする、農地の担い手不足は避けられませんが現状の優良農地を維持するということで絞りました。

■委員 項目を見直して絞り込んだということですが、「恵み豊かな郷土の自然を守り共生する」が4項目から2項目です。実感として、環境では耕作放棄地は年々増えていると思います。従って、協定農用地面積をどうするというのではなく、環境と共生するなら耕作放棄地の面積を少なくする、拡大させないということの方がこの目標に合致すると思います。絞り込みの理由はあるのでしょうか、その辺の議論はどうだったのか気になりました。

■議長（会長） 目標3と4で、目標3に「市民の割合」とあります。これは誰に聞くかによって変わってくるので、この書き方でKPIにするのではなく工夫した方がいいのではないのでしょうか。他のものは「こうなる」「登録者数がこれだけ」とハッキリと出てきますが、いまの2つは年齢層、誰というところに関係するので、進捗管理するには直接の指標を持っていた方がやりやすいと思います。

■事務局 第2次計画でも同じ目標指標の考えでした。市民アンケートの結果で進捗管理を出しています。一方で、アンケートを書く人は環境意識がある人なので高いのは当たり前という意見も頂いています。進捗管理のところは工夫しながら考えていきたいと思います。

■委員 5ページに基本理念と将来像が書いてあります。「青、緑、太陽、土」。それぞれそのイメージする目標、将来像が書かれていますが、これを達成するために目標指標を作っていると思います。どんな形でこの指標が将来像に結びつくのか、繋がり見えなかったところがあるので、簡単に説明していただけると助かります。

■事務局 こちらの指標は、サブタイトルという位置付けで、「青、緑、太陽、土」について、目標指標が「青」、「緑」などに直接つながるというような設定はできていません。

■委員 1対1の対応は要らないと思うんですが、質問の趣旨としては、市民がこれを見てみんなで協力してやっていきましょうということだと思います。「この指標が将来像に結びつく」に繋がらないと、なかなか実行力、モチベーションに繋がらないのではないかと。そういうところも加味して指標を作られたと思うんですが、そういった意味で、包括的に、「こういうことをやると、これに繋がる」という簡単な説明、1対1では対応してないということは見れば分かるんですが、指標と将来像を、イメージだけでいいので、お願いします。

■事務局 市民はやはり自然に愛着があり、恵那市の自然豊かな町に誇りを持っていると感じています。目標、将来像がそういったことを目指したものだと考えていますので、KPIに掲げるものはあくまでも5つの柱の肝になり、これを達成していくと恵那市の広い意味での環境が保たれて生かされるということで、将来像には寄与すると思っています。

■委員 今回、第3次基本計画があり、第2次の結果、6年度末までの状況、あるいは7年度の結果などを踏まえて、連続性として見た場合、数値がありますが、例えば2次で達成し得なかった状況も踏まえ、この取り組み状況がどうだったかという確認や、政策がどうだったかという振り返りがあって3次へ繋がっていくという気がしますし、この数値自体が連続性がなかなかないということが、2次と3次の切り分けなので、2次はこれでおしまいだからいいということではなく、連続性がなければ、やはり事業も続いていけないという気がしますので、7年度の確認反省点と次に向けての状況を確認したいと思います。

■事務局 別冊資料 45 ページ以降に、第2次計画の実施状況等を振り返って書いてあります。目標指標は46ページの真ん中あたりの数値です。令和7年はまだ速報データ等出ていないので、令和6年度の数値ですが、達成状況が「▲」のところは数値が至らなかった点で、47、48ページ等には「○」もあり達成できた項目もあるので、「○」「▲」という評価でコメントも付け振り返りをしました。

■委員 紹介ですが、「新国富論」という九州大学の馬奈木先生が提唱されている概念が

あります。これは、国の豊かさ、地域の豊かさを測るのに、財産というお金だけではなくて、3つのもの、自然資本と人工資本と人的資本があるということで、特にその中で力を入れているのが自然資本です。恵那市は非常に水、自然に恵まれているので、そういった考え方を裏付けとして取り入れ、より価値を評価できるようにしたいと思います。

もう一点は、私も行政と携わる者として、今 KPI の話と意地悪な質問になってしまったんですが、やはり KPI というのは疑義詰められたりとかするんですが、個人的な私自身の反省にもなりますが、KPI を立てても結局達成できないとか、KPI の数字に追われて本来の姿を忘れ必死にその数字集めに奔走してしまう。

そうならないように、元々なぜ KPI でやったのかということです。例えばお金を貯めるのはお金がないと物が買えないからです。目標とその行動、やりたいことがリンクしている。ここでも、目標指標がストーリー性をもって将来像に繋がるものが、市民に説明するときにあつたらいい。例えば間伐であれば、数字だけではなくて、「今こういう状況でこういったものを適正に手を入れていくことによってこれだけ豊かなものを手に入れることができ、結果的に澄んだ空気と多様な清らかな水辺、豊かな森林が保全され、豊かな暮らしに寄与する」とか、そういった夢、映像、小さい子でも描けるようなストーリーがあつたらいい。

■委員 意見ではありませんが、協定農用地については、農家の高齢化等がありなかなか後継者ができないという現状があります。今まで協定農用地を集落でやっていきましょう、農家同志でやっていましょうということでやってきたんですが、そこまで経費等で色々できないのもうやめようというところがあり、実際に減少しているというのが現状だと思います。

しかし、これからどうなるかですが、昨今、米不足や、米が過剰になるけど価格が下がり高止まりであるというような話があります。各マスコミでは営農組織等をどんどん作っていけば中山間地でも十分残していけるという意見があります。そういう中で米を作っていくと、CO₂ の排出量が2%以下で大きなパーセントを占めていないので、これが影響というところがないわけです。今言われているのが、作付けを多くしながら組織で行なっていけないと後継者も出来ていかないし、食糧の確保ができないと言われています。ですから、私も不耕起栽培などいろんなことを何種類もやってきましたが、採算に合うような結果にはなりませんでした。

そういうことを考えていくと、今までのようなやり方が一番いいのですが、乾田化をすることによって農地から出るメタンの排出を減らせるということなので、いわゆる間断かん水をやることによって、50%メタンの排出が抑えられるという統計資料があります。それで稲の育成状況も良くなり米もとれるようになると言われてしています。

今の値段等推移する中でももう少し安くなったとしても、後継者ができれば協定農用地も増えてくるだろうと思います。それには基盤整備をしないと、用排水の特に生物の行動を整えていくのが現実であるということです。そういった意味では、集落から法人組織として進めていっていただくのが一番いいと思います。

恵那市の今まで作付け可能とされている面積が約 1200ha あります。作付けされたところは 1150ha。100ha 近い面積が実は作付けされていない。こういう状況なので、そこをどんどん作って面積を増やしていただくことによって協定面積も増えていくと思います。

増えていかない原因はいろいろありますが、J A 等の苗の供給状況を見ると、1 年前から今年もほとんど増えていない。作ってくれと叫んでも作付けは増えていかないということです。ですので、どんどんと面積の拡大を図っていただく。それによって、CO2 の削減もある程度可能になると思います。

それから、CO2 削減に関係するものではありませんが、生態系の環境の観点ではマイクロプラスチックの話があります。ここではそれが出てこないんですけど、今、J A で販売されている肥料で M コートという一括肥料があります。一度やれば、基礎の肥料から追肥から全部それで賄えるというものです。8 年度の肥料から J コートに換わり、マイクロプラスチックが減り、4 割プラスチックを減らします。それに加えて、プラスチックが出たとしても溶ける段階で破碎をして壊れてしまうということで、農地の水路に浮遊せず、浮遊物も半分以下にする肥料に 100% 切り換えるということです。現在も切り換えてありますが、7 割程度が切り換わっているということです。

■委員 えーなびの登録、恵那エコアクション 12、再生可能エネルギーも市役所が受電していること。自分が認識していなかった点が恥ずかしい感じている。広報では、このチラシは、市としてはどれぐらい伝わっていると感じているのでしょうか。

■事務局 広報については本審議会などの会議で説明しているぐらいで、市民の方には伝わってないと感じています。もっといろいろなコンテンツで紹介していかないといけないなと思っていますが、なかなか現状できていないと感じています。

■委員 自分は直接子どもたちと関わる立場にいますので、この夏、「こどもフェスタ」でブースを作っていており、それから市民エコ会議に 11 月 17 日に来ていただき、毎年人数は少ないですが継続的にこうやって活動して取組をしています。

今年は岐阜県の地球温暖化防止活動推進センターの方に 11 月と 12 月に来ていただき、その中で、自分たちができる、二酸化炭素の学習した後に減らす活動、エコ活というのをやってみようということで、毎日記録をつけてきました。子どもの参加対象学年が 6 年生と 4 年生だけだったんですが、10 名で 16 キロの二酸化炭素を減らしたというのは、自分たちで計算して取り組んだことがこういうことに繋がっていく、小さいけど実現できたと

いう経験ができました。子どもたちの感想の中で、「やるのが癖になった」「習慣になった」「これは12月で終わったんだけど、僕は必ずシャワーのときに水を一回溜める」「トイレの便座の熱温度をちょっと下げる」とか、そういったことを気にかけていくという、子どもたちを啓発しているということがすごく大事だと今改めて感じています。

20年後の計画ですので、今10代の子たちが30代になったときに、恵那をどういう町にしていきたいのかということをするすごく大事にしているということを副市長から伺ったので、もっと学校関係者の中でもこういった活動を啓発していかないといけないと今改めて感じています。

■委員 私たちは各小学校全部に授業に出かけ、私たちがやっているゴミを減らす工夫を、4、5年生と話し合い、マイクロプラスチックを防ぐにはどうしたらいいか、自分たちができることを考えてみようということをお子たちと一緒に考えながら授業をやっています。そうすると、子どもたちというのは自分たちがこれからの進んでいく先にどういうことが大切なのかということをはっきりと答えてくれているので、授業に参加していると恵那市も明るいと感じています。やはり教育は大事だと感じて、今私たちは日々少しですが活動を続けています。

■委員 人口がこれから5年ごとにほぼ3千人ずつ減っていき、20年後には3万1000人ぐらいというのを見ると、山ほどある事業から、やることも少しずつダウンサイジングしていかないと、マンパワーが減り予算も減るので、その中から一番重要なものを選んでやっていくんでしょうが、大変だなという感想を持ちました。

■委員 目標指標、KPIがありますが、子どもたちにPRできること、それから企業にPRするべきこともあるのかなと思います。

例えば、公害等の苦情件数57件から50件ということになっていますが、57件の内容はどんな感じだったのかということが全く分からないので、商工会議所を通じてこの辺を具体的にティーチングしていただければと思います。

併せて、せっかくKPIを出していますが、基本目標2のごみ排出量758gを742gで、16g減らす、この16gが年間でどの程度のものなのか一市民として理解しにくいので、具体的な事例で広報に載せる等の啓蒙活動をするとうKPIが生きてくると思いました。

■事務局 苦情の件数ですが、別冊の21ページに公害苦情の件数を示しています。令和5年度は件数が伸びていますが、例年50件程度ぐらいで推移しています。大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、振動、不法投棄、空き地除草という空き地の管理のような苦情です。

ゴミの排出量等も市民の皆様には分かりづらい表現もあるので、事例等を入れながら広報していきたい。経済団体さんにも協力いただきたい。

■委員 市も県も国もこういった計画を多く作ってるんですが、一つ一つの計画は国民、県民、市民になかなか浸透していかない。こういった計画を作ったら概要版リーフレット

を作り広報紙に入れたりして市民に知っていただくことも重要だと思います。県も含めて工夫してやっていけたらいいと思っています。

あと、目標指標の中でアンケートの調査だと委員からの指摘がありましたが、指定避難場所を知っている市民の割合はアンケートでやっているということなので、アンケートの対象が同じだと、次の年には多分「前年のアンケートで知ったから」と多くなってしまうので、工夫が必要だと感じました。

■委員 資料2 の一番最後の4番、令和7年度の新たな取組等、サステナブル燃料の活用ということで、兼松株式会社と連携協定を締結ということですが、どういうことを今後の視野に入れて協定を締結されたのか説明いただけますか。

■事務局 環境基本計画にも明記していますが、令和7年度、兼松株式会社さんと協定を結びました。世界ラリー選手権を本市で開催をしており、使用している燃料がこのサステナブル燃料という環境に配慮された燃料なので、これを市内で生成することを目指して協定を結んだということです。ガソリンの代替になるもので、ガソリンを市内で生成することを最終目標としています。20年以上かかる長期的なものにはなりますが、それを目指してやっていきたい。これが実現すれば究極のCO2フリー、脱炭素のまちづくりにも貢献していくと思います。

現行ではやはり輸入になっていますので、まずは輸入したものを市内で活用する、そして市内での生成を目指して検討していくということで、すぐに実現は難しいかもしれませんが、徐々にステップアップしながらやっていきたい。

また、今年度の動きでは、この資料には明記してありませんが、行政や民間で組織されている水素の協議会等が全国組織や中部圏内でもありますので、そういったところへ参画し、職員の知見も高めつつ、調査研究等も高めていきたいと思っています。

■議長（会長） 最後に私からコメントをします。

「環境」という言葉を広辞苑で引くと、確か「人を取り巻く空間」のようなことだと書いてあります。今ここで環境をどうするかということを議論していたんですが、可能なら13ページに、「人がどういう暮らしをするからこういう環境を作る」という、国がウェルビーイング、より良く生きようみたいなことを言っているのに合わせていくならば、「恵那市の人口がこうなるが、恵那市はこういう暮らしを守っていきたいので」という、「こういう環境を維持したい、ついてはこういう目標で」というふうにした方がいい。環境は議論されているが、人のところの定義や決めがないので、どういう環境なのかなと思いました。13ページをもう少し拡張できるなら、人口の減少などのところに加えて、「どんな人口がどんな生活スタイルをするからこういう環境を作っていきたい、その目標は」というふうにした方がより伝わりやすいと思いました。

この審議事項、諮問された計画の策定についての意見、皆さんのご意見も頂いたので、

それを踏まえて進めて下さい。

報告事項

(2) 恵那市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】の進行管理について

■議長（会長） 続いて、議題（2）恵那市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】の進行管理について事務局より説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（会長） 意見、質問はありませんか。

■委員 希望です。13 ページ、バイオディーゼルの活用。燃料で、5 %ディーゼルは基本的に全く問題ない。ディーゼル利用ということで問題ないということです。是非パッカー車 1 台だけではなく積極的にどんどん入れていただきたい。若干経費のかかるようですが、CO2 削減というところで取組が必要なので、ぜひ拡大していただきたいと思います。

エコカーの導入ですね。9 ページ。まだ 100 台以上残っていますね。127 台保有していると 8 ページに載っていますが、6 年で約 100 台以上の置き換えは大変だと思うので、計画的に進めていただければと思います。

■委員 太陽光発電のことで、新しい太陽光発電がどんどん載せられていくんですが、過去の古い太陽光発電はそろそろ寿命が来ている、2030 年頃にはだいぶ廃棄されるという話を聞いたんですが、廃棄に関してはなんか噂が出てきたりはっきりしていない。ほとんどが中国製で問題がたくさんあると聞いているんですが、その辺はどうなのでしょう。

■事務局 廃棄問題は不安なところがあります。恵那市では恵那電力を設立しており、恵那電力の方針として森林伐採等を行わず設置しています。屋根置き太陽光で市の公共施設では古い設置の物もありますが、もう少し寿命があると思うので、今すぐ廃棄問題というところにはなっていませんが、今後は国のガイドラインも検討されているということも聞いていますので、安全な廃棄、そしてリサイクル可能であればリサイクルして、適切に対応していきたいと思っています。

■委員 メガソーラーのことが今すぐくニュースになってますよね。恵那市にメガソーラーの予定はないのか。

■事務局 今把握しているのは岩村町の飯羽間地区で大規模にやられており、建設中だということは聞いています。この大規模なメガソーラーは、民間ではありますが、市で太陽光を規制する条例等も作っており、まずは地域住民が理解しないままの開発はNGということにしているので、開発業者と周辺の住民と合意形成を図った上で着工していただく

ように指導をしています。

■議長（会長） 今のは、区域施策編に移ったのか、それとも事務事業編なのか。

■事務局 メガソーラーは区域施策編です。市役所の事務事業とはちょっと離れた話になります。恵那電力の太陽光などは、事務事業編で公共施設の屋根などでやっていきます。

■委員 資料の 8 ページにエコカーの入替えの推移と目標値がありますが、一般家庭でもそうですが、エコカーは入れても最終的にはその人の使い勝手というか、実際にエコカーを入れていく中で、ここに目標値がありますが、使用したガソリンの消費量の推移とか。エコカーと言っても PHEV からハイブリッドまで混在しておりガソリンが 0 というわけではないと思うのですが、その辺の推移は把握されているのでしょうか。

■事務局 燃料はエネルギーですので、ガソリン、ディーゼル、軽油のデータも集計し、それを CO2 に換算して毎年国に報告をしていますので、そういったデータも集計しています。毎月 CO2 削減の啓蒙をしている中で、省エネイコール経費削減になるということで取り組んでいますので、無駄なアイドリングはなくそういう取組を周知しています。空ぶかしなどの周知をしているということです。ガソリンの数値も把握しています。

■委員 ありがとうございます。市民としては、ガソリンも税金から拠出されますので、そのあたりもしっかり認識して使っていただきたいと思います。

■議長（会長） 質問、意見全て出てきたようですので、この件については議題を終了します。

（3）その他

■議長（会長） 続いて、「その他」について事務局より説明をお願いします。

■事務局 報告案件 3 件を説明します。

1 点目です。今年度 6 月から 7 月にかけて、ごみ処理場であるエコセンター恵那が機器故障によって稼働停止したことを第 1 回環境審議会で報告しました。東濃各市に外部搬出しごみ処理をしました。この際に当審議会委員より、稼働を停止していた際の経費を算出して報告してほしいということでしたので、エコセンター所長から報告します。

■エコセンター恵那所長 エコセンターの所長の後藤と申します。前回の委員からの質問に回答させていただきます。

エコセンター恵那では本年 6 月 23 日に機器設備故障が発生し、緊急停止し、稼働が停止しました。この間、7 月 3 日から 7 月 25 日の間に東濃地域の 4 市、中津川市、瑞浪市、土岐市、多治見市にごみ処理を委託し、ごみピットが満杯になることを回避することができました。また、市のゴミ収集車のみでは各地のゴミ処理施設への運搬が困難であったため、市内の廃棄物処理許可業者 2 社に委託をして対応しました。その結果、合計約 390 ト

ンの可燃ゴミを処理していただき、これに要した費用は合計で約 650 万円でした。一方、稼働停止期間における処理施設の燃料費及び光熱水費は、令和 6 年度の同時期と比較して合計約 560 万円の削減となりました。

■事務局 続いて、事業所で「省エネ・脱炭素に関する実態調査」、アンケート調査をやっていただけることになりましたので、報告します。

第 3 次計画で市民の脱炭素の取組の割合という項目がありました。こちらは市民アンケートですが、事業所で脱炭素や省エネに関する取組をどれだけやっているのかのアンケートや調査をしたことがなかったので、恵南商工会、恵那商工会議所で同様なアンケートを取っていただけるということになりました。市と連携してアンケートを取ることで、市内業者の機運も高まり、かつ、現状どんなことをしてどんな取組の中で困りごとを感じているのかということ、アンケートを通じて施策に反映していきたいと思っています。

今回は口頭での説明ということで、実際のアンケート等については会議所等と相談しながら取りまとめ、報告できる段になったら資料等でお示ししたいと思います。

続いて「恵那市地球温暖化対策実行計画の見直しについて」報告します。

2030 年までの温暖化計画があります。こちらは区域施策編と事務事業編があり、両方とも 2026 年、令和 8 年度に中間見直しをします。次年度、この環境審議会の皆様にも意見を頂きながら中間見直しを図っていききたいので、次年度審議いただきたいということです。

以上 3 点です。

■議長（会長） 意見、質問はありますか。

ないようですので、全ての議題が終了しましたので、以後の進行を事務局へお返しします。

6. 閉会

■進行（事務局） 会長、ありがとうございました。副市長は他の公務のために途中で退席をさせていただきました。

副会長に閉会のご挨拶をお願いいたします。

〔 副会長 挨拶 〕

■事務局 これにて令和 7 年度第 2 回環境審議会を終了いたします。

次回、第 3 回環境審議会は 2 月末から 3 月上旬に開催予定です。

〔 閉 会 〕